

絵本『長寿湯の仙女さま』

『むくげ通信』262号、2014.1.26

飛田雄一



ペク・ヒナ
『長寿湯の仙女さま』
(장수탕 성녀님)
2012.8
出版社 책읽는곰

ほんとにすてきな絵本です。2013.12.15 朝日新聞Globe で、戸田郁子さんが紹介されていた。戸田さんは、『ふだん着のソウル案内』（晶文社 1988.2）、『ソウルは今日も快晴』（講談社文庫）、『忘れられた痕跡 中国朝鮮族への旅』（岩波書店、2011）などを書かれている方です。

すぐに、正月にソウルに行く足立龍枝さんをお願いして、買ってきてもらいました。11000 ウオン、今は1100 円です。ウオン高で計算しやすく？なりました。

戸田さんによると著者ペク・ヒナは 42 歳、アメリカでアニメーションを学び、紙や布、粘土で、石膏などで立体的な造形物をつくり、それを撮影した絵本で注目を集めているとのこと。2005 年のボローニャ国際児童図書展では、『ふわふわくもパン』でイラストレーター賞を受賞したとのこと。この本は、日本でも出版されている（小学館、2006.4）（同ホームページでは、雲で作ったパンを食べると不思議なことが…。ある日、ねこの姉弟が木にひっかかっている雲を見つめます。お母さんにその雲でパンを焼いてもらって食べると、なんと、空を飛べるようになって…。さあ、どんな冒険が始まるのかな？夢があふれる韓国の絵本です。）

ソウル在住の日本人のブログでも紹介されていて、最後に「この本のことを調べたら。なんとあの有名な『ふわふわ雲パン』の作家さんだったんですね！？」とあるので、このことを知りました。



<http://plaza.rakuten.co.jp/kyukyu2004/>

『長寿湯の仙女さま』は、なつかしい銭湯の話です。私は中学3年に垂水区多聞団地に引っ越すまで銭湯に行っていました。団地には銭湯がないのにびっくりしたことを覚えています。兵庫区都由乃町時代は、同級生の H 君の家が銭湯（大黒湯）で、H 君はよく番台に座っていました。同級生の女の子が来たときには変な感じと言っていました。プロレス・力道山もそこで見せてもらっていました。

この絵本は、オンマと銭湯にいったトンジのお話です。



オンマと銭湯にいきます。楽しみです。銭湯にいればヨーグルトがもらえます。



番台におばあさんがいます。大人 4000 ウオン、未就学児童 3500 ウオンです。さっそく水風呂にはいつて遊びます。



オンマが風邪ひいても知らんよ、と言います。それでも遊びます。



変なおばあさんが現れます。山に住む仙女だけれど、羽衣をなくしてしまって帰れないのでここで過ごしているといいます。トンジは、びっくりします。(トンジの頭の27は、何かわかりますか?)

おばあさんは「仙女ときこり」の話をしてくれました。トンジはよく知っている話でしたが知らないふりをして最後まで聞きました。



おばあさんは水風呂での遊ぶ方をたくさん教えてくださいました。あったかいお湯に入ってから、垢すりもしてもらいました。いい気持ちです。



おばあさんにお礼にヨーグルトあげました。おばあさんはおいしそうにのみました。お家にかえりました。



そしてやはり?、風邪をひいてしまいました。熱にうなされているとき仙女ばあさんが枕元にあらわれ、ヨーグルトくれてありがとうねと言って頭をなでくれました。次の朝、うそのように元気になりました。



インターネットでこの本のことを調べてみました。ヤクーコリアがなくなってどうしたものかと思っていましたが、学生センタースタッフの朴さんが、ヤフージャパンでそのままハングルを入力したらOKだと教えてくれました。そのとおりでした。



作者のペク・ヒナさんもたくさんでできました。すてきな女性です。インタビュー記事には、「紙粘土と似た性質の水に溶けない材料で人形を作って昔ながらの雰囲気に残る浴場と交渉をして撮影させてもらった。生き生きした人形の表情と古い浴場がよくマッチしました。幼かったころ駄々をこねたとき、オンマがよくヨーグルトを買ってくれました。仙女が出てきそうな浴場を探すのに出版社編集チームが大変苦労しました。出版社の男性スタッフが、人形が水から浮かび上がる構図を撮るために人形を持って男湯に入ったりもしましたし。(笑い)」(インターネット版韓国日報 2012.12.21) というのもありました。

ユーチューブでは、かわいい朗読もあります。動画ではありません、十分に楽しめますよ。

<http://www.youtube.com/watch?v=ZdBbvOQtAI>

また、むくげの会のゲストディ 2000.11.7 にも来てくださった現ソウル市長・朴元淳さんが、ソウル北フェスティバルでこの本の読み聞かせをしたという記事もありました。子どもの絵本「多読表彰」もしたようです。

はい、大おすすめの一冊です。